

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより
第126号

nanae historical
museum collection

ななえ古写真物語

VOL. 126

山道を行く

峠下小学校遠足の景
昭和35年頃
大沼地区



駒ヶ岳を背景に記念撮影。上の写真は昭和35年ころに、峠下小学校で行った遠足の様子である。話によると、学校から歩いて峠を越えて、大沼までを往復したという。じゅんさい沼へ抜ける峠道なのか、かつて大沼トンネルの上部を走っていたバス道路なのかはわからないが、未舗装とはいえ、しっかりと踏み固められた峠道である。

男の子は学生服、女の子はスカート姿で、肩からは水筒を下げているなど、およそ、遠歩きには向かない服装で、今では考えられない距離を集団で歩いている。

ところで、遠足が日本で行われるようになったのは、明治初期といわれている。このころは、いくつかの学校が合同で運動会を開くことがあったため、集団で他所の学校まで歩いていくことを、遠足と呼んだという。それが、明治中ごろから、運動や見学といった教育的な意義をもたせる学校行事として独立し、定着していったと考えられる。また、教師が生徒を引率して、日帰り程度で校外へ歩いて出かけるのを「遠足」とし、交通機関を用いて、宿泊をとまなうのを「修学旅行」として区別するようになったという。

思い出してみれば、小学校生活の中で遠足とは、ふだん目にすることがない景色をみられる非日常な時間で、なによりも、机に向かわなくてもよい、勉強から解放される喜ばしい一日だった。背中に汗拭きタオルをはさみ、弁当と水筒、そして、わずかなお菓子をおやつを楽しむにと、リュックへしまい込んだものだ。

ところが、集団で列をなして歩いた記憶はあまりなく、ほとんどが、バスで移動したような気がする。もはや「遠足」ではなく、ただの「遠出」といっても過言ではないだろう。

時代の変容なのかもしれないが、本来、遠足とは歩きながら、いろいろな視覚的な刺激を受感することによって、意味があったのではないかと、今さらながら思う。

最近、ある高校の炊事遠足が、現地集合・解散で行われ、平日の日中にも関わらず、現地まで子どもを送り迎えする親が多いという話を聞いて、たいそう驚いた。よくわからない時代になったものだと感じるのは、私が歳をとったからかもしれないが、そこに、どのような教育的な意義があるのか、問いたくもなる。

上の写真に、遠足の本来の姿が写っていると感じるのは、私だけなのだろうか。

7月の予定

6日

西大沼地区で春の探鳥会を行いました。例年は、大沼セミナーハウスの周辺での開催でしたが、今回は場所を変えて、いつもとは、違う景色を見ながらスタートしました。ところが、朝早くから降り続いた雨は、止むことはなく、肌寒さを感じながら、木々を渡る鳥たちの声に耳を澄ませ、姿を目で追い、およそ40種の鳥を見つけることが出来ました。家の近くでよく見る鳥も、講師の説明が加わると、知識が増え、さらに興味が湧いたと、ある参加者の方が話してくれました。励みになるひと言を頂き、感謝です。



12日

春うららかな土曜日、七飯町クリーンセンター付近から出発し、森を歩きながらお気に入りの植物や生きものを見つける「フォレスト・コーミング」を行いました。植物の名前の由来、仕組みや生き残る戦略、葉脈の美しさを観察。広い知識の持ち主である講師の金澤氏からは、「自然から言葉を知ると、日々が非常に豊かになる。」と教えて頂きました。すぐそばの自然にこそ、指針になるものが多いことを思い出した時間でした。



26日

ジュニア探検クラブ第2回は「ぼくらの菜園作り」と題し、さつまいも・アイ・まいたけの育成を行いました。畑作りはまずは開墾から、ということで、鍬で土を起し、石を拾い、畝を作り、と一連の作業を計画し、挑んだのですが、初めて使う鍬や思いのほか大きな石がごろごろと出てきて、なかなか難儀な作業でした。さつまいもとまいたけは、秋に収穫をし、皆で試食、アイは、染料として利用し、草木染の体験をします。育て、食すまでは、多くの手間とお天気にも左右されず。果たして無事に収穫となるかどうか。



1	日
2	月
3	火
4	水
5	木
6	金 夜の博物館
7	土
8	日
9	月
10	火
11	水
12	木
13	金
14	土 展示OPEN予定
15	日
16	月 海の日
17	火
18	水
19	木
20	金
21	土
22	日
23	月
24	火
25	水
26	木
27	金 ジュニア探検クラブ
28	土
29	日
30	月
31	火

7月の休館日はありません

石の表情

学習室に海辺の漂着物を展示しています。様々な表情を持つ石にも注目してご覧下さい。



編集後記 ~tawagoto~

6月に入り、あたたかくなってきたなと思ったのも束の間、10 前後の日々が続いている。体も驚いているのだが、プランターや鉢、花壇に植えた種が、芽を出し始めたと思った矢先なので、寒さにあたり、しおれてしまわないか不安になる。予報では、今年の夏も猛暑とのことだが、それすら疑いたくなるような冷え込みである。それでも、夏はやってくると、暑さに弱い私は、あきらめにも似たため息を吐くばかりである。(やまだひさし)

Richart

~ピチャリ~

第126号

平成30年6月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp